

## 行田市子ども・子育て会議 会議録

会議の名称	平成26年度第1回行田市子ども・子育て会議	
開催日時	平成26年 5月 28日(水) 開会； 13時30分・閉会； 16時00分	
開催場所	行田市役所305会議室	
出席者(委員) 氏名	(会長) 馬橋正芳 (副会長) 清水与志雄 石井直彦 出井英夫 桑原宏安 園部浅子 馬場恵喜子 中澤左衛子 山村利子 増田節子 堀内 規 星野恵美子	
欠席者(委員) 氏名	羽鳥英樹 横田康介 長谷川清	
事務局	藤間英夫 細谷博之 藤倉敬士 島田あかね	
会議内容	1 開会 2 議事 議題1 子ども・子育て支援事業計画について 議題2 子ども・子育て支援法に基づく各種条例の制定について 議題3 その他 3 閉会	
会議資料	(配布資料) 資料1 子ども・子育て支援事業計画について 資料2 子ども・子育て支援新制度の施行に際して例規整備が必要な事項 資料3 特定教育・保育施設の運営に関する基準 資料4 放課後健全育成事業の設備及び運営に関する基準 ○ 行田市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査結果報告書 ○ 行田市子ども・子育て会議 別冊資料	
その他必要事項	傍聴人 1名	
会議録の 確定	確定年月日	主宰者記名押印
	平成26年 月 日	Ⓜ

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
馬橋会長 事務局	<p>1 開会（13：34）</p> <p>○馬橋会長あいさつ。</p> <p>出席委員12名 欠席委員3名で出席委員が過半数を超えているため会議条例第6条第3項により会議が成立している。</p> <p>傍聴希望者1名の入場について諮問・了承。傍聴人入場。</p>
事務局 園部委員 事務局	<p>2 議事</p> <p>○議題1 子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>子ども・子育て支援事業計画について説明。</p> <p>事業計画策定に向け、ニーズ調査結果を基本に「量の見込み」を数値化するとのことであるが、現在の進捗状況はどの程度か。</p> <p>現在、ニーズ調査結果報告書の数値を基に「量の見込み」の推計作業を進めている。次回（6月）の会議には、「量の見込み」と本市の傾向などを提示できる予定である。</p>
園部委員	<p>「量の見込み」は、保育所、幼稚園、認定子ども園などそれぞれ分けて「量の見込み」を推計するのか。</p>
事務局	<p>「量の見込み」の数値化については、ニーズ調査による数値を基本として、なるべくわかりやすい形で提示したいと考えている。</p>
清水副会長 事務局	<p>「量の見込み」は、定員数などが表示されるということか。</p> <p>「量の見込み」の数値化後、事業計画や確保方策を策定していく中で、本会議の意見を取り入れながら、利用定員等についても検討することになる。</p>
石井委員	<p>ニーズ調査を実施するにあたり、子ども・子育て支援新制度における認定子ども園についての周知はしたのか。本市の認定子ども園の整備状況はどうか。</p>
事務局	<p>調査票の中には、認定子ども園について説明されている。ただし、回答いただいた方がどの程度理解した上で回答したかは不明である。また、新制度施行後に認定子ども園へ移行するかどうかの確認は、今後意向調査（アンケート等）を実施する予定である。</p>
石井委員	<p>認定子ども園の必要性について、市はどう考えているか。また、</p>

事務局	<p>認定子ども園に移行する場合、いつまでに申し出ればいいのか。</p> <p>認定子ども園への移行は、各所・園の運営に関わるものであるため、現状と公定価格など総合的に判断した上で、各所・園が選択するものである。国では、平成27年4月から新制度の実施を予定しているが、実施以降、随時移行手続きは可能であるので、申出期間は設定していない。</p> <p>市としては、移行を考えている所・園があれば支援をしていきたいと考えている。</p>
石井委員	<p>保護者のメリット・デメリットを含め、市として認定子ども園への移行を推進する立場なのかどうかを聞いている。</p>
事務局	<p>市内に認定子ども園ができれば、保護者にとっては選択肢の幅が広がるという意味ではメリットがある。しかしながら、行田市として認定子ども園を推奨・推進するものではない。あくまで、各所・園の意向を尊重したい。</p>
石井委員	<p>認定子ども園のメリットは選択肢が広がるだけであるならば、ニーズ調査を行う必要はないのではないかと。</p>
事務局	<p>ニーズ調査は既に本年1月終了している。今後、実施する予定はない。</p>
石井委員	<p>資料1の11ページ。「地域子育て支援拠点事業」と「放課後児童健全育成事業」の量の見込みと確保内容があるが、このようなことを今後検討していくのか。</p>
事務局	<p>これはあくまで国から示されたサンプルである。</p>
石井委員	<p>本市における同様なものはいつ頃でののか。</p>
事務局	<p>「量の見込み」については、次回6月の会議時にニーズ調査を基本とした数値を提示する予定である。確保方策については、「量の見込み」設定後に検討することとなる。</p>
事務局	<p>「量の見込み」を数値化する際には、現状の数値も提示してくれれば比較しやすいので、是非お願いしたい。</p>
園部委員	<p>石井委員にお聞きしたい。先ほどからの質問を聞いていると、認定子ども園を推進しているように聞こえる。認定子ども園のメ</p>

石井委員 馬橋会長	<p>リット・デメリット等について、ご自分でどこまで理解しているのか疑問である。認定こども園・保育所・幼稚園それぞれのメリット・デメリットについて、本人の考えを聞かせてほしい。</p>
	<p>実際の経営者等ではないので、保護者の立場で発言している。 暫時休憩する。</p>
	<p>休 憩（１４：３３）</p>
	<p>再 開（１４：４５）</p>
馬橋会長	<p>会議を再開する。</p>
	<p>議題１について他に意見はあるか。</p>
増田委員	<p>保育所に入所しようとする、市の指定する書類を多種提出しなければならない。認定子ども園が進み、その点も簡素化されるのであれば、保護者の立場からは大変有効であると思う。</p>
事務局 馬橋会長	<p>提出書類については、従前と変わらないと思われる。 他に意見等はあるか。</p>
	<p>（なし）</p>
馬橋会長	<p>○議題２ 子ども・子育て支援法に基づく各種条例の制定について</p>
事務局 園部委員 出井委員	<p>子ども・子育て支援法に基づく各種条例について説明 教育と保育の実情を踏まえた条例制定をしていただきたい。 放課後健全育成事業の設置運営基準では、学童保育の定員が定められるようであるが、小学校の余裕教室を利用するなどして、利用定員の増加を考えてはどうか。</p>
事務局 園部委員	<p>「量の見込み」及び確保方策を検討する中で決定していきたい。 学童保育室に関しては、小学校の敷地内に独立して設置されていることが多い。なぜ、学校と学童保育室を区分しているのか疑問である。</p>
山村委員	<p>鴻巣市の学童保育は、小学校６年生までの受け入れをしている。行田市では、小学校３年生までであり、この枠を６年生まで広げる考えはあるのか。</p>
事務局	<p>行田市の学童保育も、小学校６年生まで受け入れは可能である。</p>

増田委員	<p>ただし、4年生以上の高学年の児童は、優先度が劣るため、結果的に高学年の学童保育への入室が少ない状況である。</p> <p>今後、「量の見込み」や「確保方策」を検討し、事業計画や条例等を策定していく中で、是非、保護者ニーズを反映したものとなるようにしていただきたい。</p>
園部委員	<p>保護者ニーズだけではなく、当然子どものニーズ、目線に立った計画となるよう検討してもらいたい。</p>
清水副会長	<p>資料1の16ページ。子ども・子育て支援事業計画は、毎年度点検・評価するとのことであるが、毎年何月頃実施する予定か。</p>
事務局	<p>事業計画は、子ども・子育て会議等を活用し、毎年度点検・評価を行い、必要に応じて計画の見直しをすることとなっているが、実施時期については現在未定である。</p>
馬橋会長	<p>他に意見等はあるか。</p> <p>(なし)</p>
事務局	<p>○議題3 その他</p> <p>次回の会議日程について調整。</p> <p>次回の会議の開催は、平成26年6月24日(火)又は25日(水)を予定し、会議室の空き状況により決定することとした。</p> <p>また、次回の会議内容は、「量の見込み」について、ニーズ調査結果や現状を具体的に数値化したものを提示するとともに、条例関係は、条例制定が必要となる条例の概要等についてご協議いただく予定である。</p> <p>3 閉会(16:10)</p>